

女性農業者が社会活動で地域に貢献 ～指導者の教えを地域の後継者へ伝える～

愛西市 飯田喜美子さん
酪農

【平成 29 年 10 月 20 日掲載】

若い頃から農業者の立場で積極的に社会に関わり、地域において「人を育てる」活動を行っている愛西市の飯田喜美子さんをご紹介します。現在は、酪農（飼養頭数60頭）を主体に、夫の雅美さん、本人、長男の淳さんの3人で経営しています。今回は飯田さんの社会活動を中心にご紹介します。

女性農業者の4Hクラブを設立

飯田さんは昭和23年、渥美半島の先端にある旧渥美町小塩津の切り花農家に生まれました。姉妹の長女で、農家を継ぐつもりで追進農場（現 農業大学校）に進学し、1年間花き栽培を学んだあと家に戻り、切り花栽培を始めました。そのころ、小塩津地区には同年代の女性農業者がおらず、仲間がほしいと思いましたが、渥美町には女性が気軽に入れる4Hクラブがなかったため、周りの地区に勧誘に行くなどして女性農業者6名を集め、「渥美町女子4Hクラブ」を設立しました。



飯田喜美子さん

指導者との出会い

設立後早速、代表者として県や全国の青年農業者の会合に出席することになり、そこで出会った指導者に大きな影響を受け、「人を育てる」ことの重要性を学びました。

当時、県では、女子教養講座^{※1}を月2回実施しており、飯田さんも参加しました。県職員で講座の担当だったAさんは、参加者の自主性を重んじた運営や、各自の長所を活かした活動ができるよう指導してくれました。講座において飯田さんは、Aさんから、物事をまとめて発表したり執筆する能力に優れているからと司会や会報の編集委員を任されました。

また、4Hクラブでの活動が評価され、総理府（現 内閣府）主催「第3回青年の船^{※2}」の団員に選ばれた際には、大学教授のBさんから、恥をかいて挑戦し、経験していくことの大切さを教えられました。青年の船では、海外の文化や歴史に触れ、他国の人と交流し、また、他の団員から様々な仕事の立場や考え方を学び、視野が広がりました。

さらに、船の責任者から、「国家事業として団員に選ばれたことを肝に銘じ、船を降りたら必ず『事後活動』をこなさい」と言われたことが、飯田さんの後々の活動につながりました。

※1 県全域から女性農業者が毎回 30～40名集まって名古屋市等で講座を開催。講演会（徳川美術館の館長の講話など）や発表会を実施。

※2 約 300名の団員のうち全国4Hクラブ連絡協議会の推薦を得て乗船した4Hクラブ員は7名。約2週間の事前研修後、約2か月間東南アジアの各国を訪問。

結婚により一転、八開村へ

飯田さんは、4Hクラブの活動を通して夫の雅美さんと知り合い、昭和46年、愛知県の南端

の渥美半島から、西端の八開村（現 愛西市）へ嫁ぎました。

飯田家は、酪農、水稲、露地野菜、レンコンの複合経営でした。結婚の際に、地域の普及員から「親と部門を分けたほうが良い」とのアドバイスを受け、雅美さん夫婦は主に酪農を担当しました。制度資金を活用して酪農の規模を拡大し、3人の子供を育てながら必死に働きました。

飯田さんは、八開村においても積極的に社会活動に取り組み、海部地方生活改善実行グループ（現 農村輝きネット・海部）に加入したり、PTA役員を引き受けて小中学校とつながりを作るなど、地域の活動に参加するようになりました。PTAにおいて、司会や発表を頼まれたり、体験学習を受け入れたり、農業や地域のことを人前で話す機会に積極的に取り組みました。

地域において「人を育てる」

平成5年に長男が後継者として就農し、時間的な余裕もできたことから、平成7年に農村生活アドバイザー認定、平成12年に海部地方生活改善実行グループ会長就任、平成13年に民生委員（主任児童委員）就任、平成15年に「輝きネットあいちの技人」認定、平成23年に愛西市農業委員就任、と現在に至るまで様々な役職を担ってきました。

農村生活アドバイザーには、制度ができた一年目に認定され、その後村内での認定者が5名となった平成12年に、村長や団体代表者、アドバイザーの配偶者等を招いた八開村地区活動の設立総会を立案し、実施しました。この取組が地位向上や団結力向上につながり、その後の活動をしやすくしました。他の市町村でも設立総会が行われ、各市町村のアドバイザーがまとまって活動する基礎となりました。

愛西市の農業委員は、飯田さんの就任当初は37名中女性は2名でしたが、女性農業者の活動をPRしたり、広報誌の原稿執筆に携わるなどの貢献が評価され、次の改選時には4名に増えました。

どの役職も、若い頃に指導者に教えてもらったことへの恩返しや、役を果たすことで『事後活動』ができるという思いで、責任をもって取り組みました。特に心がけたのは、自分が指導者から教授したように「人を育てる」こと。農村生活アドバイザーや農業委員での活動では、メンバーの特徴を活かせるよう役割分担して、やる気を引き出してさらに長所を活かせるよう誘導したり、知恵を出し合ってよりよい活動にする経験ができるよう取り組みました。

周囲に感謝し、今後も活動を続けていく

今年度70歳になる飯田さん。これまでの活動を振り返り、若い頃に両親が好きにさせてくれたこと、尊敬すべき指導者や仲間に出会えたこと、家族の理解があり比較的外に出やすかったことなど、周囲や環境に恵まれていたと話してくれました。

平成16年から現在も続けている活動として、小学校における食農教育を行っています。味噌づくり指導や豆腐づくり指導では、最初は一人で指導していましたが、近年はあとを継いだ女性農業委員が自発的に手伝ってくれ、農業委員の研修の場にもなっています。「今後も食農教育や様々な役は若い世代に上手く手渡ししながら、自分はボランティアなどできることを続けたい」と、『事後活動』を続けていく決意を見せてくれました。



食農教育の様子

執筆：農業経営課

取材協力：海部農林水産事務所農業改良普及課